

2021年 8月 24日

2021年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 まつぼっくり
代表者・役職名 氏名 福田天平

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

ダイニングテーブルセットおよび事務所デスクセットの購入

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

社会福祉法人松葉の園によって、さらなる事業の拡大、青少年たちへの幅広い支援を目指すべく、2007年10月1日より、東京都西東京市に自立援助ホームまつぼっくりが開設されました。
松葉の園の他の事業(児童養護施設、ショートステイ事業、保育所、放課後対策事業、子育て支援サービス)は板橋区にて運営されています。
今まで関わった青少年は35名になります。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

開所より、同じダイニングテーブルと椅子を使用しているが、経年劣化による不具合が顕著です。
同様に事務デスクも、引き戸を強く引き出せば壊れる物を慎重に使用しています。
コロナの感染症や震災など、安全を保障する立場として、危機管理について考えることが増えました。
特に生活の中心にある、ダイニングテーブルセット購入を検討することとなりました。
また、子どもたちの生活を守る職員の働きやすさ、安心して業務に入れる環境づくりを大前提に、事務所環境も整え、気持ちよく永く勤めていただくことを期待したいです。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ダイニングテーブルセット
子どもたちも日常的に、椅子の破損など気に掛けながら食事をしている。軋む椅子などは必然と座らなくなる。安心して食卓を囲める環境を提供したい。
事務所デスクセット
経年劣化や錆により、軋む音や金具の破損などが目立つようになった。被害に遭ってしまった職員もあり、早急に新しいものの購入を検討したい。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

メープル色の新しいテーブルの購入に、ホーム一同喜んでおります。無意識のうちにも料理を囲む時間、団らんを共有する時間は格段に増加しました。職員も綺麗に保つことへの意識も高まり、テーブルを拭いている姿を利用者が見るという何気ない生活の光景も、更に意味のある時間にさえ感じます。

事務所デスクも以前より大きく、事務用の椅子を購入したこと、仕事へのメリハリがついたこと、デスクを囲んで運営や遭遇に掛かる話も程よい距離(気持ちも体も)を取りながら話すことが叶い、大胆な発言も見られるようになりました。

利用者も事務所へ来て、綺麗なデスクを囲みながら将来の話をするなど、メリハリのある空間を作れたように感じます。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

器具什器の購入は、自立援助ホームの運営・財政面において優先度が低いことは、全国のグループホームの課題です。入居者に対して、自分だけの部屋がある、食事を囲めるだけでも一つの保証ではあるが、最善の保証とは決して言えません。いわゆる最低限の保証と言ったところでしょうか。

安心して暮らせるることは、物の清潔さではありませんが、整えられた空間、綺麗な環境を知っているという事は、将来の彼らにとって財産であり、心を豊かにすることに必ず繋がると期待しています。

我々も、これらのことを考えながら支援へ取り組み、彼らの将来が豊かになるよう、時間と言葉を重ねて行ければと思います。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。

